

南薩教育事務所だより

令和4年11月発行

「教えること」と「育てること」

指導課長 益満 裕美

今年度も市教育委員会と合同の学校訪問をさせていただいた。各学校では、学校長の学校経営目標の下で、様々な取組が行われている。校種や学校規模の違いがあっても自校の子供たちの健やかな成長を願う思いに差はない。学校訪問等で得られた効果的な取組を、積極的に情報発信していくことに今後も努めていきたい。

さて、最近、「Z世代」という言葉をよく耳にする。「Z世代」とは、元々はアメリカから伝わった世代分類を示す言葉で、ジェネレーションZから生まれた。1990年代半ばから2010年代生まれの世代を指し、インターネット環境での情報収集が当たり前であったり、SDGsに代表されるような環境問題への取組など社会問題への関心が高い傾向があったりする世代だそうだ。

「教えること」と「育てること」の違いは何だろうか。「教えること」は、例えば山の登り方を伝授することである。どのような服装で行けばよいのか、持ち物は何を準備すればよいのか、高山病への対策はどうすればよいのか、などを伝えることである。一方で、複数ある山の登り方から、どのルートがその人にとって最適かを見極めてやるのが、「育てること」である。これは、教えることが難しいと思う。「教え、育てる」という言葉を使うが、この言葉を大事にしたい。子供たちに「教えること」を生業としている教師は、「教えること」の先にある「育てること」を意識することで、子供の姿から、一人一人にどのように関わっていけばよいのかが見えてくるのではないだろうか。

Z世代が中心となって創っていく社会は、どうなっているのだろうか。私たち教師は、目の前にいる子供たちが将来逞しく生き抜いていくために、「育てること」を心にとめながら、子供たちと関わっていききたい。ところで、「Z世代」の次になる2010年代以降に生まれた世代は、「α（アルファ）世代」と呼ぶそうだ。

信頼される教職員・学校を目指して

1 飲酒運転の根絶、速度超過及び交通事故等の防止

- ・ 交通法規の違反は、教職員としての信用を失う行為です。

2 体罰の禁止

- ・ 体罰は、学校教育法で禁止の違法行為です（感情的にならずに、落ち着いて!）。

3 わいせつ行為の根絶

- ・ 人としての尊厳を傷つける深刻な非違行為です。

4 職場におけるハラスメントの防止

- ・ 人格や尊厳を侵害し、職務意欲の低下や職場環境の悪化を招きます。

一度失った信頼を取り戻すには、多くの時間と労力を要し、その損失は計りしれない。
自分自身のこととして考え行動を!

1・2学期 合同計画訪問

教育事務所と各市教育委員会による合同計画訪問を行っています。本年度は17校を訪問し、各学校における取組の説明を受け、授業を参観させていただいています。各訪問校において、学力向上や生徒指導、学校保健や安全指導など、それぞれの課題に対して職員一丸となって取り組まれている現状を確認させていただいています。訪問に対し、御協力いただき、ありがとうございました。



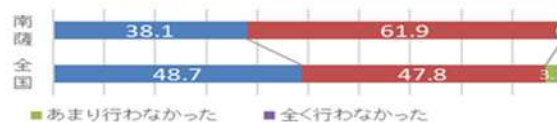
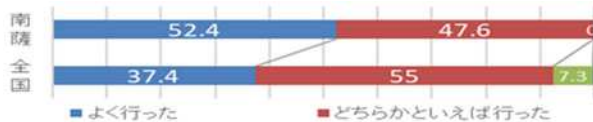
令和4年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた改善を！

令和4年4月19日（火）に、全国の小学6年生と中学3年生を対象として、全国学力・学習状況調査が実施されました。南薩地区の正答率は、小学校は、全国や県の平均とほぼ同じか、上回る結果となりました。中学校は、数学にやや課題が見られますが、国語と理科はほぼ全国平均並みとなっています。

学校質問紙から見てきた課題が以下の家庭学習に対する取組です(グラフは小学校のデータ)。

(78) 前年度までに、児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。

(77) 前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか。



2つの質問から、家庭学習を促す取組はよくなされているが、学習方法の指導が十分でないという結果が見えてきました。この傾向は、中学校も同様です。

さらに、南薩地区は、自分で計画を立てて学習する児童生徒が少ない傾向にあります。家庭学習の質を高めるためにも、家庭学習の具体的な指導をお願いします。

「積極的な生徒指導」の充実を！

平成22年に生徒指導の指針として作成された「生徒指導提要」ですが、生徒指導に係る課題の増加や複雑化、関係する法律の施行を受け、本年度中に改訂版が公表されます。新たな生徒指導提要では、「積極的な」生徒指導として以下の2つを挙げています。

- ① 発達支持的生徒指導（児童生徒が主体的に自らを発達させる環境づくり）
- ② 課題予防的生徒指導（起こりうる生徒指導上の課題に備える教育や調査）

これまでも各学校で行われていることの延長線上にあることですが、改めて各学校の取組を確認してください。なお、新たな生徒指導提要は近日中に文部科学省HPに掲載予定です。

「チャレンジかごしま」取組状況

【令和4年度前期取組状況】

小学校	学校申告率	83%
	学級申告率	65%
中学校	学校申告率	82%
	学級申告率	80%

令和4年度の前期は、昨年度同様、積極的な取組が見られました。後期も、児童生徒の実態や各学校の課題に応じて、計画的・継続的に取り組みましょう。

後期取組目標は、以下の4点です。

- 1 全学校の取組（学校申告率 100%）
- 2 全学級の取組（学級申告率 100%）
- 3 複数種目への取組
- 4 地区重点取組「のぼしてコロコロ」、「2人でさっさっ」への挑戦

地域の教育力向上に向けた取組

9/27(火)	地区公民館経営研究会	
講演	演題	「南薩地区の文化財探訪」
	講師	下豊留佳奈氏（オフィスいろは代表）
事例発表	人口減少時代の自治会活動 南九州市知覧地区公民館館長	
10/13(木)	地区社会教育研修会	
講演	演題	「南薩地域で伝えていきたい地域資源」
	講師	東川隆太郎氏（NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会代表理事）
10/18(火)	地区PTA会員等教育講演会 兼人権教育ブロック別指導者研修会	
講演	演題	「スマホ時代の子どもとインターネットをめぐる問題」
	講師	白土師直弘氏（県教育庁高校教育課学校教育 ICT 推進班指導主事）